



平成の合併の時、中津川という地名が2つあったため、ここは窪川中津川と改名された。小字に分けると中津川、上下の栗の木、桑の又になる。氏神様も三社あり、中の河内神社には珍しい植物が自生している。「梅花黄蓮」というキンポウゲ科の多年草で、春早い時期に親指の爪ぐらいの白い花を咲かす。境内の植林は間伐され、木漏れ日の差す所には「石楠花」が多数植えられている。4、5年先が楽しみな場所でもある。

県道松原窪川線沿いに「四万十ヤイロチョウの森トラスト」と書かれた看板がある。県鳥であるヤイロチョウを保護している。奥山深山への渡り鳥であつて、姿を見ることはまれで、「幻の鳥、森の妖精」とも言われている。運が良ければ声を聞くことができるらしい。『シロペンクロペン』と鳴く。



栗の木山の石鎚様

下栗の人におもしろい話を聞いた。この地を開いたのは宮内権といつ人で、2500m上流の日野

地川に石積みで堰を築き、水を引き、約4町歩の水田を潤した。権さんは大変な力持ちで、大石を寄せる時、前を7人で担がせ、後は自分1人で担いだそう。目玉が飛び出るのを押し付け押し付け担いだという。現在は地主様として祀られ、春秋にはお祭が行われている。

「あれは何？」庭先に石を針金で数珠のように吊るしている。このお宅に住む吉村さんが集めた天然の穴あき石のこと。川原で探しても簡単に見つかる物ではない。浦越地区の石神様のお願いほごきには、『耳石』という穴あき石でお札参りをする。そのお礼参りに行く人だろつか。「分けて欲しい」と吉村さん宅に来る人もいるようだ。



庭につるされた穴空き石

「樅、檜の大木もある。熊野神社に六十余社、石鎚様に竜石様、お堂の中にはお大師様とお薬師様、別の場所には観音様、社とお堂が多く、お参りする人もきれいな地区。祭壇には生き生きしたシキミが祭られ、11月の風さえ温かく感じる散策だった。

## 町のうごき

9月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	9,173	1	男 3	5	13	12
女	10,257	-12	女 2	7	8	15
計	19,430	-13	計 5	12	21	27
世帯数	8,801	2	8月中の届出)			

## 四万十川の 水質状況

	適正值 mg/L	9月15日
リン酸	5.0	測定値以下
硝酸	0.5	測定値以下
アンモニウム	5.0	測定値以下
アニオン活性剤	1.0	1.250
化学的酸素消費量	10.0	測定値以下

調査：大正（吾川）  
資料：四万十高校自然環境部

四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)